

若いなかま

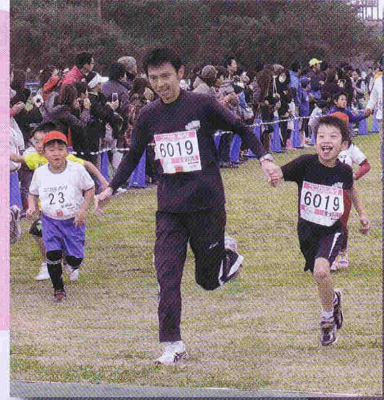
発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号
吉塚合同庁舎6F

TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : http://www.fayd.jp/



目次

表紙 (県民さわやかマラソン)	1	乳幼児教育研修会	5
県民さわやかマラソン	2	地域の話 (筑後市、豊前市、春日市)	6
特集 「福岡県青少年プラン」	3	平成25年度 (公社)福岡県青少年育成県民会議賛助会員のご紹介	7
県青少年育成指導者研修会および家庭の日・オアシス運動 最優秀作品表彰式	4	青少年育成 “考” その他	8

(公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)

第13回 福岡県民 さわやかマラソン 2013

と き：平成 25年 11月 17日 (日)

と ころ：海の中道海浜公園

マラソンを通じて家族の触れあいを深めるとともに勤労者の健康増進を図ることを目的に、今年で13回目を迎えた本大会。小学生から一般、親子ペアの種目もあり、参加者は大会の名の通り元気な歓声と共に、さわやかに紅葉の美しい会場を走りぬけた。



熱気が

寒さを吹き飛ばす

冷たい海風と小雨の中、会場の準備は着々と進められた。午前9時から始まった受付には、早くも傘を手に参加者の列が並んだ。

参加者は2、085人で、家族、応援者を含めると、実に4、000人近くが会場を埋めた。

最後まで走りぬきます！

午前10時、(公社)福岡県青少年育成県民会議副会長 丸林茂夫氏の「日ごろから鍛えた力を十分に発揮し、大自然の中でさわやかに走りましょう！暖かい応援を」との開会宣言を受け、東住吉小学校6年生の副島悠輝さんと藤田純成さんの選手宣誓。「最後まで走りぬきます！」と元気な二人の声に寒さも吹き飛んだ。



将来の夢

種目「1km女子小学2年生」の部で表彰された3人にインタビュ。1位の入江紗羽さんは北九州市から

今年初めての参加。

「参加してとても楽しかった。オリンピックの選手になりたいです」

2位の今野和奏さんは福島県からの参加。



「20回目の参加で、前と同じ2位だったので、目標ができた。将来の夢は選手。お父さん、お兄ちゃん、みんなで毎日練習していきます」

3位の内村咲さんは小郡市から初めての参加。「スタートで緊張しました。お休みの時、お父さんと走っています。将来の夢は今から決めます」



「走る」大好き！今野さん一家
兄(小5)も2km親子ペアで出場

遠くは北海道から鹿児島まで、小学1年生から84歳まで、世代を超えて楽しんだ一日。閉会式の空は青く澄んでいた。

種目別入賞者

- ▼1キ口(小学1年)「男子」①藤本晴空②山本来石③上村洋司郎「女子」①永松輝留②平野若菜③山中日花里(小学2年)「男子」①藤本祐輔②安部直斗③瀧本蓮央「女子」①入江紗羽②今野和奏③内村 咲(小学3年)「男子」①鬼塚大翔②高崎天照③藤本竜飛「女子」①庭瀬沙耶②松本奈々③大庭千夏子(親子)①西田真司・涼起②松岡 修晃③御手洗浩之・奈
- ▼2キ口(小学4年)「男子」①河津尚希②岩瀬 師③中川舜也「女子」①安部咲月②長野有佐③只隈七海(小学5年)「男子」①庭瀬俊輝②倉掛 響③徳田正輝「女子」①藤岡梨梨②篠原一花③荒駒春菜(小学6年)「男子」①森 洸晴②小林弘祈③猿渡永遠「女子」①三好莉紗②丸山実早輝③中村友香(中学生)「男子」①石田涼介②福江真吾③松原 築「女子」①合屋奈夏②山中花咲③脇田ちひろ(高校生)「男子」①塚崎 龍②森 佑貴③宮崎翔太「女子」①大庭風紗②大村夏希③倉田清香(親子)①石田恵一・洸介②石橋孝祥・広基③多比良信一・弘
- ▼5キ口(中学生)「男子」①泉 建史朗②森 優弥③山口 武「女子」①久保志織②東島美夏(高校生)「男子」①堀江淳太②大成幸希③市川政哉「女子」①永久美里②金谷晴菜③永田風沙
- ▼10キ口(高校生)「男子」①藤井拓美②西田駿児③池田成宏

特集②

福岡県青少年健全育成総合計画 福岡県青少年プラン

基本理念

家庭、学校、地域、行政それぞれが責任を果たしながら、連帯して社会全体で青少年を育む福岡県を目指す。

今後5年間の青少年施策の基本となる「青少年プラン」を福岡県が公表して約1年が経とうとしている。

2月12日、福岡県新社会推進部青少年課と福岡県教育庁義務教育課から、その内容と進捗状況について話を聞いた。

今回は、その中から、主に「めざす青少年像」と青少年施策の方向の柱―「次代を担う青少年の育成」に関する事業について報告する。

◆めざす青少年像◆

「豊かな心と志を持つ」

たくましい青少年

この青少年像を具体化していくために、①「青少年アンビシャス運動」と②「教育力向上福岡県民運動」を車の両輪として相互に連携協力させていくという。

①青少年アンビシャス運動は、地域が中心となり、家庭・学校と連携した「アンビシャスな青少年」の育成に取り組む運動である。

②教育力向上福岡県民運動は、学校が中心となって、家庭・地域の協力を得ながら、「福岡がめざす子ども」の育成に取り組む運動である。

この両運動は、車の両輪として連携協力していくことで、家庭・地域・学校の教育力をより高め合う相乗効果が期待されている。

◆青少年施策の方向の柱―◆

「次代を担う青少年の育成」

数多くの施策の中で、学校現場に最も身近な問題として、平成26年度から展開される学力向上のための具体的施策について、義務教育課に聞いた。

◎「土曜授業」等の推進

県教委では、平成24年3月に土曜授業実施のための指針を定めていたが、学力の向上を図るため、外部講師の交通費などを補助する事業を創設し、土曜授業の導入を促進することとしている。

学校週5日制の趣旨は堅持したまま、月2回を上限に半日の授業を行う。



保護者や地域の理解や連携を重視し、保護者や児童生徒の負担とならないよう留意して実施するという。

また、特に支援が必要と認められる18市町村を選定し、市

町村が行う学力向上事業に補助を行うとともに、教育事務所による学力向上支援チームを重点的に派遣する。さらに、教員の指導力・資質向上のため、教材集と診断テストを作成し、全学校に配布を行い、国語、算数・数学の基礎基本を含む活用力を向上させる。

◎魅力ある学校づくり

「地域、保護者から信頼される学校」が魅力的な学校づくりの基本になる。学校の情報発信と地域との連携が不可欠である。

◆青少年プランの進捗状況◆

青少年プランでは、広範多岐にわたる青少年施策を体系化し、これに基づき、42課において244の事業に取り組んでいる。

また、プランの実効性を確保するため、いじめの解消件数の割合など22の指標（数値目標）が掲げられており、毎年、実施状況をとりまとめ、公表される。

平成25年度が計画期間の初年度であり、次年度に実施状況が明らかになる。

5年間で数値目標にどれだけ到達できるか、期待されるところである。今後も推移を見守っていききたい。

いつもそこに、いつでもそばに。



ココロがある。コタエがある。
西日本シティ銀行

平成25年度 福岡県青少年育成指導者研修会

日時：平成26年1月25日(土)

場所：福岡県中小企業振興センター



《家庭の日・オアシス運動》個人2名に表彰状

研修会開催に先立って「家庭の日・オアシス運動」最優秀作品の表彰式が行われた。応募総数1,011点の作品の中から、ポスター部門には、須恵町立須恵東中学校2年の荒巻菜月さん(右)、作文部門には遠賀町立遠賀南中学校1年の西依由里香さん(左)が選ばれ表彰状と記念品が贈られた。受賞後、受賞者より作文の朗読と、応募の理由、作品の内容等のインタビューが行われた。

主催者挨拶で右田喜章県民会議会長は、近年、失われてきている親、家庭、学校、地域の教育力の回復と合わせて、家庭、学校、地域、企業職場が連携し、明るい社会環境を作り出すとともに大人自身が変わる努力をしなければならず、対応能力の向上を図り、青少年育成の現場に反映していただきたいと述べた。

今回は、子どもねつと会議所代表・井島信枝氏と日本ソーシャルコーチ協会理事長・福岡郁雄氏を講師として迎え、青少年の健全育成にかかわる家庭問題や子育ての問題点の講演をしていただいた。

講演1 青少年健全育成と電子メディアの問題

子どもねつと会議所 代表 井島信枝氏



インターネットに接続する機会は以前はパソコンだけでよかったが、今は携帯からスマートフォンに移行してきている。また、ラインなども簡単にできるものもある。親が知らないうちにアダルトサイトを見ていたなど、インターネットに接続するPCの機能があり外でもできる。インターネットというものは、ほとんどのサービスが大人が使うことを想定されて作られているもので、使いこなすには大人同様の様々な知識と能力が必要で、子どもが使う安全確保は、ほんのひとりにぎりしかない。

「私は大丈夫、親より詳しい」という安易な過信がネットの中のトラブルにまきこまれてしまう。ネットの中は親が24時間監視できるものではなく、最終的には子どもが判断して行動するもので、誰もみていない行動こそあなたの価値を問われるときで

あると子どもに伝えてほしい。子どもがどれだけ生活体験(お手伝いなど)や自然経験しているかで正義感や道徳心といったものが高いというデータがある。今の時代とても忙しくそのような時間が欠けがちであるが、あえて活動につれていったり、手伝いをする大切さを教えることがこれからのネット社会の子ども達に非常に重要である。ネットの中にもルールや法律があり、子どもがそれを犯して子どもだから許すというのではない。家庭でのルールを作り節度ある利用環境を作ることも重要である。また、保護者間での情報を共有し連携することで解決することも多い。今後もインターネットはなくなり変化していくし、子ども達もその中で生きていかねばならない。インターネットを更に素晴らしい文化に成長させるか、悪と欺瞞に満ちた汚れた社会にしてしまうかは、インターネットを使うすべての人の手にゆだねられていると結ばれた。

講演2 子どもの健全育成 コーチングについて

特定非営利活動法人 日本ソーシャルコーチ協会 理事長 福岡郁雄氏



①姿勢：子育てとコーチングに相談しますか。相談に来た人の90%は、ただ聴いてほしいだけとのアンケートがあり、ほんとうにアドバイスを求める人は1割にしかすぎない。子育てには正解はない。相談を聴いているときにそのお母さんがどんなに頑張っているかを探し、そこを見逃さないよう聴くことである。三つのきくがあり、訊く(尋ねる)、聞く(口ででき)、聴く(耳で)

きく)、つまり五感でできくことが重要である。コーチングの語源は「馬車」という語

源があり、大切な人をその人が望む場所へ運ぶこと。教えないコーチが良いコーチであったというが、共感をし、認めて、質問を投げかけ、そのためには信頼関係を築き、選手自らこうしたいという場所をみつけることをコーチングという。こちらがききたいことを訊くのではなく、子どもが話したいことを聴くこと。

②共感：気持ちに寄り添う 学校に行きたくないと言われたとき 非共感用語「命令・説教・同情・尋問など」をつかわないこと。相手の言葉をくり返す。オウム返しをしようとすれば相手の話に集中することができる。「共感」によって「考え」が整理され、「共感」によって「真実」が語られる。子どもを正直者に育てたいと思ったら、訳を聴いてやること。言い訳を聴いてもらえないので嘘をつくようになる。

③承認：ありのままを受け止める いつも70点とれないのに今日はじめて90点をとった。「お母さんは嬉しい」と伝えてほしい。大切なことは「私は」です。認めてもらえた、受け入れてもらえたを感じる。アイメッセージであり評価ではなく「承認」されることで子どもの「自尊心」が育まれる。

④信頼：可能性を信じる 何度言っても、忘れ物をする。「どうしたらできると思う」という肯定質問をすること。子どもがどうしたらできるか考える質問をすること。結果ではなく、「子ども」を信じる子ども以上に「子ども」を信頼すること。怒ると叱るはちがう。怒ったとき子どもに「ごめんね」と言えるかどうか。命は大切だ命を大切に何万回言われたらそれだけで生きられる。共感・承認・信頼の聴きかたをもってあなたが大切だと子どもに伝えていただければと思う。

平成25年度 乳幼児教育研修会

日時：平成26年2月6日(木)

場所：吉塚合同庁舎6階603会議室

胎教期からの教育を提唱する家庭部会の研修会が右記の日程で開かれ、保育関係者をはじめ多くの方が参加した。半田眞弓家庭部長の挨拶のあと、三市の親子教室の事業報告と質疑応答、午後から、福岡女学院大学准教授・坂田和子氏の基調講演があった。

★親子教室事業報告★

*柳川市青少年育成市民会議

「ふれあい広がる 子育ての輪」

子育ての輪

25年度から始まった柳川市親子教室は子育て支援グループ「このゆびとま

れ」が主体となって柳川市立蓮池中学校の「地域ルーム」を利用して子育て事業を展開。中学生と地域、子育てをつなげるユニークな取り組みである。乳幼児と中学生・保護者のふれあいはもとより、中学生にも「命の大切さ」「家庭の大切さ」を伝えるきっかけになっている。昼休み、中学生と乳幼児との交流はお互いに良い効果を生み出していると学校側も歓迎している。年間9回の講座は終日の開催で、ベビーマッサージや絵本の読み聞かせなど内容も充実し、学校という異空間が子育ての輪や幅を広げている。

*糸島市青少年育成市民会議

「つなげる・つながる 子育て・子育て支援の輪」

子育て・子育て支援の輪

親子教室事業2年目は2つの目的

- ① 子育ての支援者や団体と繋がりがながら教育力を高め、子育ての支援の輪を広げる。
- ② 子育て・子育て、子と親がともに育つ（共育）機会を提供する。

を掲げ、年間6回の事業を実施。特に好評の「くつろぎカフェ」を2回開催したことが他の事業の来場者の増加に繋がるなど、子育てネットワークの拡充に貢献。子育て支援の手ごたえ、広がりが見えてきている。

*大川市青少年育成市民会議

「健やかな心と体を育む子育て」

親子教室事業3年目の大川市は、「食育と親子のコミュニケーションの大切さ」をテーマに「大豆の種まきからお豆腐作り」講座を年間6回開催した。食物を育て、命を育み、自分たちの命に繋がっていることを経験できた。初年度から比べ講座の参加者は2倍になり、「食と命の大切さ」を親子で体験できた。親子で一つのことに取り組み楽しさを味わうことのできる親子教室は今回で終了するが、開催を望む声も多く、今後も形を変え取り組んでいきたい。

☆基調講演 ☆

福岡女学院大学人間関係学部こども発達学科

准教授 坂田 和子

乳幼児の発達障害

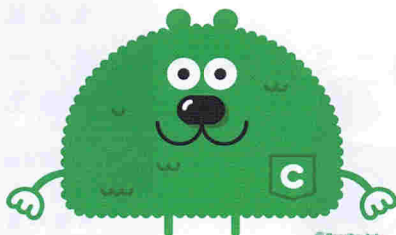
「すべての子どもの発達を保証するために」

発達障害は「自閉症・アスペルガー症候群・学習障害・注意欠損多動性障害(ADHD)」等を総称しており、その「特徴・特長」と現在の診断基準(社会性障害・IQ判定等)について説明。判断の最初は1歳6か月、3歳の発達健診であり、あとは保護者や保育者の日常生活の観察・気づきがかきつけになる。しかし、保護者による他者との比較や、保育専門家の過剰反応は要注意である。特に「ADHD」は中学生くらいでその症状が消えることもある。大切なのは障害のあるなしにかかわらず、子どもが生きる上で生活しやすく、その子らしさを受け入れられる環境があること。



子どもの成長に関わる社会の仕組み(医療・福祉・教育・保育等)の連携がなされ、手続きの簡素化が必要である。講演後、多くの質問があり、参加者の熱意がうかがえた。

「もっと、お客様との結びつきを深めたい」。そんな私たちの想いをカードにしました。



「友愛ウィンターキャンプ」

筑後市青少年育成市民会議

平成26年2月8日(土)～9日(日)に、友愛ウィンターキャンプを行いました。このキャンプは、真冬の雪山でテントに泊まるという、日常生活の中では体験できない活動を行うものです。

今回は、小学4年生～中学2年生までの36名が参加し、天山リゾートスキー場でスキー体験を行った後、唐津市巖木町の緑風館にテントを張って1泊しました。

子どもたちは、氷点下の気温の中、協力してテントを張り、スキーの他にオリジナルの凧作りやカルタ大会、自由時間には雪合戦などをして楽しみました。年齢、学校が違う友達もできて、有意義な時間を過ごすことができました。



地 域 の 話 題



「春日市六中・生徒会サミット」

春日市青少年育成市民会議

今年で6回目を迎える春日市の「六中・生徒会サミット」は、市内の全中学校の生徒会役員が参画して、12月の「新生徒会役員研修」と翌年8月の「実践発表」を毎年開催しており、その企画・規模としては全国に類を見ないプロジェクトと言えます。

「研修」では、今、色々の分野で活躍されている新進の講師を招いて、「リーダーとしてのあり方や考え方」についての講義やコーディネイトをお願いし、生徒会役員が主体的に考え、熟議して活動計画を作ります。そして、「実践発表」では、生徒会活動進捗と成果を120数名の参加者の前で発表します。この「六中サミット」が、急速に大きく変化する社会の中で、生徒たちがリーダーとして成長していくきっかけづくりになることを期待しています。



「第26回

豊前天地山ジョギング大会」

第26回豊前天地山ジョギング大会
実行委員会主催

平成25年12月1日(日)、豊前市天地山公園多目的グラウンドで「ゆっくり・楽しく走ろう」をモットーにジョギング大会が開催されました。

この大会は毎年開催され、今回で26回目、市内外から700人を超える参加がありました。

日本の都市公園100選にも選ばれ、雄大でやさらぎある緑の豊かさが特徴の「天地山公園」周辺を親子ペアの部や個人の部に分かれ、寒いなかではありましたが元気いっぱい汗を流しました。

健康づくり体力づくりはもちろんですが、親子の絆、地域のつながりが強くなるきっかけにするため、今後も大会を継続する予定です。



ちゃんと、見つめる。
しっかり、向き合う。



未成年者の喫煙は、
大人一人ひとりが自覚し、
社会全体で取り組む問題です。



JTの活動 私たちJTも全国各地で「未成年者喫煙防止協議会」の開催や「啓発キャンペーン」の実施など、地域に密着した活動に取り組んでいます。

未成年者の喫煙は法律で禁じられています。
日本たばこ産業株式会社 福岡支店



平成25年度 (公社)福岡県青少年育成県民会議へ賛助いただいた会員のご紹介

(敬称省略：50音別)

次の世代を担う青少年の健全育成活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。何卒今後ともご協力ご支援をお願い申し上げます。

特別賛助会員の皆様

(株) ア キ ラ 水 産 エントリーサービプロモーション(株) 九州 電 力 (株) 九州 旅 客 鉄 道 (株) (株) 九 州 電 工 コカ・コーラウエスト(株)	J A バ ン ク 福 岡 西 部 ガ ス (株) (株) 筑 邦 銀 行 (株) 西 日 本 シ テ イ 銀 行 西 日 本 鉄 道 (株) 日 本 た ば こ 産 業 (株)	日本映像ソフト制作・販売倫理機構九州支部 (株) 福 岡 銀 行 福岡県アミューズメント施設営業者協会 福 岡 県 町 村 会 福 岡 県 信 用 保 証 協 会 (公社)福岡県宅建物取引業協会	福 岡 県 ボ ウ リ ン グ 場 協 会 (株) 福 岡 中 央 銀 行 (株) ふ く や ポ ン ウ ェ イ (株)
---	--	--	--

団体賛助会員の皆様

(株) あ ら い NPO飯塚市青少年健全育成会連絡協議会 石 橋 印 刷 (株) 糸田町自由ヶ丘老人クラブ協会 岩 崎 建 設 (株) 岩 本 明 子 英 会 話 教 室 上 村 建 設 (株) (株) エ イ コ ー (株) お お す み 制 服 大野城ライオンズクラブ (一社)九州学士会福岡支部 粕 屋 殖 産 (株) 嘉穂無線ホールディングス(株) (株) 環 境 開 発 苅 田 ラ イ オ ン ズ ク ラ ブ	(合) キ ャ メ ル キ ュ ー サ イ (株) 九 州 ホ テ ル (株) 桂 川 ラ イ オ ン ズ ク ラ ブ (医) 光 風 会 宗 像 病 院 (医) 高 邦 会 高 木 病 院 公立学校共済組合福岡宿泊所 小竹町御徳工業団地企業連絡協議会 (株) 三 広 (医) 三 裕 会 拾 六 町 病 院 三 和 ス ポ ー ツ (株) S Y D 修 養 団 福 岡 県 連 合 会 新日鐵住金(株)八幡製鐵所 (医) 成 晴 会 堤 病 院 (株) 瀬 利 宗 助 商 店	高 木 印 刷 社 (株) 千 鳥 饅 頭 総 本 舗 東京海上日動火災保険(株) (株) 西 日 本 新 聞 印 刷 (株) 西 日 本 新 聞 会 館 (株) 二 宮 佛 具 製 作 所 (株) ハ ち ゃ ん 堂 (株) ヒ ュ ー リ ス ア カ デ ミ ー (株) ヒ ロ カ ネ (有) 深 町 印 房 福岡空港ビルディング(株) 福 岡 県 私 学 協 会 福 岡 県 商 工 会 連 合 会 (社)福岡県私立幼稚園振興協会 福 岡 県 遊 技 業 協 同 組 合	(一社)福岡県労働者福祉協議会 (社福) 福 岡 コ ロ ニ ー 福岡県農業協同組合中央会 富 士 火 災 海 上 保 険 (株) (学) 藤 川 学 園 (株) 洲 上 フ ァ イ ン ス (株) フ ラ ワ ー ビ デ オ (株) 丸 信 三 井 松 島 産 業 (株) (株) ミ ナ ミ 商 事 明治安田生命保険相互会社 (株) 百 田 工 務 店 (株) 山 本 組 (株) ワ イ ズ ヨ シ ハ ラ
--	--	---	---

広告協賛団体の皆様

(株) 西 日 本 シ テ イ 銀 行	日 本 た ば こ 産 業 (株)	(株) 福 岡 銀 行	(株) 福 岡 中 央 銀 行
---------------------	-------------------	-------------	-----------------

助成金支援団体様

(社) 福 岡 県 共 栄 会

個人賛助会員の皆様

青木 毅 青野 隆子 赤星 満子 秋武 純子 山崎憲一郎 浅野 翔太 阿多 一信 穴見 英三 阿部総四郎 新井 潤 新井 洋子 有馬 博 有吉キ又子 有富 貞義 井浦 蘭子 伊折 千秋 石川 治夫 石橋 具視 石丸千恵子 石丸 仁志 市川 明江 伊東 明子 伊東 清寛 伊東 千鳥 稲富 明 井上 高顕 井上 智朗 井上 俊治 今富 健二 今富美代子 入江 智子 岩城 辰美 岩村 幸二 因 征四郎 植木 節美 植木美津枝 植田 茂実	植田富士子 上野 一成 上野 静香 植松 惟祐 上村 育也 牛島 昌哉 内田 隆敏 内山 慶子 内山 信勝 梅川由聡子 梅木 敬晴 浦田 幸子 江川 洋 江崎 恵子 江崎美津子 江崎 峰子 江崎真喜子 江藤 天信 大石 光代 大内マツノ 大里キ又工 大澤 良一 大島 勇夫 太田 強 太田 哲也 大西 潤平 大橋 拾子 大原 始 大庭 奈名 大曲 昭恵 大道 和彦 大藪 和子 岡松 直照 岡村 潔親 岡村 憲人	小川フク工 小川 洋一 奥 久志 尾座本宜一 忍田十三子 越智 康久 落石 藤隆 音成 桂子 音成 浩子 音成 道彦 音成 陽子 戒田 協枝 貝原 正司 柿本 憲治 陰山 博 笠原 高一夫 高司 静香 梶原 保則 数山 栄子 香月 均 加藤 重敏 金子 博 樺島 篤 樺島 義幸 樺島 謙治 神島 勝義 神谷 龍治 辛島 秀典 川上 瑞穂 河崎 充 川島 純 河原さよ子 菊次 和夫 木佐貴光代 城戸 徳郎 木原 忠	木室 和子 草場 浩康 久保田浩介 熊谷 博孝 熊野 君男 熊本 幸雄 倉重 健一 倉富 昭正 厨 元博 毛屋 信 古賀 祐三 小佐井麗菜 小崎 恵司 古園井広記 児玉 弘 後藤 秀昭 後藤 政喜 小林 祥彦 小林 孝行 小林 正之 小林 美穂 小宮 董 小宮 良俊 小山雅千子 河野 達海 是枝 高司 権現 昭二 坂口 千恵 坂本 大典 笹尾 順子 指方 義弘 田代 強一 佐藤 和久 佐藤 光俊 里永 純二 塩川 秀敏 芝 奈美	芝 義勝 柴田 照子 島津 俊寛 島津 俊幸 紫牟田和男 下茂野 寛 庄司 真美 白土 聖司 白藤 史 進 成具 末田 金次 末次 威生 末弘 孝之 末松 六則 須貝由美子 菅澤 幸世 杉原 惠宏 鈴木 康敏 陶山 正徳 副島 紀身 園田 秋吉 染矢 敬雄 田尾 泰幸 田和 昭壽 高取 安代 竹井 章子 竹井 澄 竹田 芳朗 竹永 悟 竹本 邦利 田籠 重利 田代 強一 田代 保博 田中 一郎 田中 一弘 田中 浩治 田中純一郎	田中 慎二 田中 哲也 田中 信 田中 睦子 谷 治子 田畑 隆明 田原 智子 田淵慎一郎 塚本 靖 辻村 哲弥 津上 正幸 坪称千鶴子 手島 道子 徳永 文暁 富澤 義敬 中下 啓志 中島貴美子 中島 公明 中島 俊介 中嶋 俊子 中嶋 利男 中嶋 浩 中嶋 博之 中嶋 宏 中國 真史 永野 歩美 永野 宏二郎 永野 仁 長野 繁蜜 長野 士郎 長野 春奈 中原あや子 中原潤一郎 中原 千晴 中原 憲幸 中原 康之 中村香代子	中村 清 中村 征一 中村 治幸 中村 睦子 中村 吉吉 滑石 隆紹 灘波 千明 灘波 英次 西 貞佳 西岡 辰祐 西山 隆 二宮 和子 野上 明倫 野口 和恵 野田 好秋 野中 茂雄 橋本 愛子 畠田美恵子 畑中 規一 畑中ミナ子 畑玉 博幸 八谷 正範 初山 宏 花田 拓 花田 真雄 花村 彰夫 馬場 京子 濱口 大祐 早川久美子 早川 良子 林 賢太郎 林 初代 原 明義 原 桂子 原口 庄望 稗田 慶子	東 久患 東野 芳枝 久岡 一生 久門 尚基 久下 正俊 泥谷 和男 秀 ハツエ 日野喜美男 日比 健次 百武 剛 兵頭 隆 平田 美子 平野 真規 平野 学 深見 健児 福井 悦子 福澤 信義 福島 正人 藤田 孝子 藤田 直子 藤田 信治 藤竹庄次郎 藤津権三郎 藤野 真美 藤本 廣子 藤山 晶子 藤山 泰三 藤原 正子 藤原 孝 不動 勝義 船越 章夫 古川 孫一 古川 雅子 戸次 隆文 堀口 國勝 堀家 克巳	真子 太 増田美智代 松石 量則 松浦 孝徳 松枝 米洋 松岡あかね 松岡 久代 松隈 秀隆 松隈 浩 松崎 範子 松崎まどか 松本 純也 松本 美香 松本 洋子 松本 好成 間普 敦 丸山美恵子 三木 茂靖 満生充一郎 光延 時江 南 巧 南 博 宮崎 陽子 宮永登志男 牟田 敏雄 牟田利加子 村上 英一 村上 治 村上 信子 村田 浩 村田 洋平 村山真知子 本園 明 森 博子 森尾 隆行 守田 栄三 森永 武彦	森永 泰雄 森野美枝子 八重野信子 八木 知英 安武 憲明 八尋 祐二 彌永九州男 山口 明 山田 和子 山田 貴文 山田 憲勝 山根 千里 山本 正義 横溝彌太郎 横山 繁利 吉岡まち子 吉里 光世 吉田 壽一 吉田 善仁 吉田 正宇 吉武 寛将 吉次 惠美 吉留 節子 吉永 康之 吉原 陽子 米倉 秀之 力丸 暁 渡辺 常朝 渡辺 博史 渡邊 康夫
---	--	---	--	--	--	--	---	--	--

事務局だより

主な行事(25年11月11日～H26年3月15日)

11月	17日(日)県民マラソン
11月	18日(月)第10回広報部会(発送作業)
11月	19日(火)ジュニアリーダー養成事業実行委員会
11月	25日(月)青連協定例常任委員会 代表者会
11月	25日(月)～26日(火)中央研修会
12月	1日(日)「野外学習」報告会
12月	7日(土)～8日(日)ジュニアリーダー養成事業
12月	25日(火)第2回理事会・合同部会
1月	16日(木)県共榮会助成金贈呈式
1月	20日(木)第11回広報部会
1月	(以降)2/12、25、3/4、10、17
1月	(以降)2/17
2月	24日(金)青連協定例常任委員会
2月	(以降)2/17
2月	25日(土)「家庭の日・オアシス運動」 最優秀作品表彰式並びに 青少年育成指導者研修会
2月	1日(日)第6回健全育成部会(以降)3/27
2月	3日(月)～14日(金)「家庭の日・オアシス運動」 優秀作品展示
3月	6日(木)乳幼児研修会
3月	13日(木)県民マラソン大会補助金検査
3月	17日(日)県民マラソン監事監査
3月	19日(火)県民マラソン事務局会議
3月	25日(月)県民マラソン実行委員会
3月	28日(木)青少年閉幕大会実行委員会
3月	1日(日)青年リーダー養成事業
3月	6日(木)総務部会
3月	13日(木)家庭部会(予定)
3月	17日(日)合同研修会(予定)
3月	27日(木)～31日(日)江蘇省青年閉幕交流会(予定)
特別賛助会員	新賛助会員(H25年10月31日～H26年2月17日)
(株)アキラ水産(福岡市)	大里 規之(福岡市)
団体賛助会員	大里 亮二(福岡市)
(株)千鳥鮫頭総本舗(福岡市)	梶島 謙治(柳川市)
	金子 博(福岡市)
	野口 和恵(福岡市)

赤い羽根共同募金



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

青少年育成 考

「スマホの向こう側」

公益社団法人福岡県青少年育成県民会議理事・副会長

蒲原 由和



先日、路上で後ろから歩いてきた女子高生に「追突」された。手にはスマートフォン(スマホ)。メールがネットに夢中だったのだろう。

今やスマホ花盛りだ。昼夜場所を問わず老若男女がスマホを握りしめている。しかし、通勤バスで時々見かける学生が隣にいる友人らとは会話もせず、一心不乱に掌の上の小さな機械に向き合う図は、やはりため息を誘う。

スマホの保有率は中学生で4割、高校生で7割を超えているという。「手元にないと不安」という病的依存率の増加はすでに社会問題となっている。長時間の使用は、若者にとって大切な睡眠やまともな食事を妨げ、通信費で小遣いを減らし、家族や友人との会話や触れ合いの時間を犠牲にしているはずだ。

私もタブレットを持ち歩くひとりだ。ちょっととした調べものや道案内のほか、写真や音楽など趣味の分野でも重宝している。しかし便利で楽しいツールも「四六時中手放せない」となると話は別だ。持ち主を縛るようになれば、たちまち弊害が生じる。

起床から就寝までネットで仲間(あるいは他人)と繋がっていたい、という多くの若者の切迫感は計り知れない。そこまで孤独、孤立を恐れる背後には、家族や友人との会話不足、対人関係の乏しさが透けて見える。

スマホ花盛りの向こう側に目を向けよう。子どもたちの成長にとってもつと距離を縮めるべきものは何か、適度な距離が必要なものは何か。大人も一緒に考えなければならぬ問題だ。

編集後記

広報委員になってまもなく4年、未だに慣れない文章づくりに悪戦苦闘している。勿論、取材はそれなりに楽しいのだが、それを文章にして如何に伝えるか、本心に難しいところ。で今回の記事の主な内容は、①昨年11月に開催された「福岡県民さわやかマラソン」、限られた紙面の中で会場の雰囲気や参加者の熱気を如何に伝えるかに苦心。

②特集として取り組んでいる「福岡県青少年プラン」、今回2回目。主に学校における取材。③今年1月に開催された「福岡県青少年育成指導者研修会」の講習内容の取材。④今年2月に開催された「乳幼児教育研修会」の事例報告や講習内容等の取材を掲載している。

取材した内容を適格に伝えられたのか、ちょっと気になるところではあるが、今後気持ちよさを込めた取材を行い、わかりやすい紙面づくりを心掛けていきたいと思っている。(広報委員 石橋 具視)

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議では、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動を行っています。

県民会議の活動に賛同いただき賛助会員の募集を行っています。会費は左のとおりです。電話(092-643-6001)いただければ、資料をお送りいたします。

青少年の健全育成のために

賛助会員入会のお願い

賛助会員の年会費

個人	1口	1,000円
法人又は団体	1口	15,000円
特別賛助会員	1口	50,000円

納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。
西日本シティ銀行県庁前出張所(普通預金)0163919
福岡銀行県庁内支店(普通預金)526475
筑邦銀行福岡支店(普通預金)1597091
福岡中央銀行本店(普通預金)1030569
県庁内郵便局郵便為替口座 福岡 01700-5-4057

